

畜産共進会

～矢部・清和地区～

9月2日、矢部・清和地域内用牛振興協議会主催による第8回宇城・上益城地域統一畜産共進会予選会が熊本県畜産農業協同組合矢部畜産指導センターで開催されました。入賞結果をご紹介します。

■褐毛和種の部

- 名誉賞首席 なみはな号
藤本 洋一さん（郷野原）
- 名誉賞2席 みつしげ号
田上 祐元さん（御所）
- 名誉賞3席 あや号
佐藤 正生さん（寺川）
- 名誉賞4席 はるこ号
楠村 嘉朗さん（白小野）
- 名誉賞5席 ななみ号
木野 哲さん（郷野原）
- 名誉賞6席 くにこ号
山下 隆生さん（牧野）



褐毛和種の部 首席 なみはな号

■黒毛和種の部

- 名誉賞首席 はるひら2号
吉見 泰治さん（高月）
- 名誉賞2席 かつまる号
吉田 敬信さん（米生）
- 名誉賞3席 はるみ号
村山 康也さん（麻山）
- 名誉賞4席 はまかつ号
森島 孝司さん（御所）
- 名誉賞5席 はなこ号
飯星 新助さん（鎌野）
- 名誉賞6席 あすか1号
吉田三千夫さん（米生）



黒毛和種の部 首席 はるひら2号

「農」の環境を学ぶ

～県立大学学生による農業体験～



熊本県立大学環境共生学部1年生25人が9月1日～3日、町内農家で農業体験をしました。

これは県立大学のフィールドワークという授業の一環で行われ、2泊3日の日程で町内農家12戸に泊り込み、トマトやピーマンの収穫や出荷作業を体験しました。コーディネーターを勤めた野口慎吾さん（白小野在住・同大学院博士後期課程卒）は、「この農業体験も今年で7年目を迎えました。継続できるのは農家の方々の協力のおかげ。学生も山都町の魅力を肌で感じています。豊かな自然に育まれた生物の多様性以外に、他の町村にはない何か、山都町にはあるような気がします。」と話しました。

参加した学生たちは、普段口にする野菜などを育てる課程を実際に体験。一緒に汗を流し、さらに農家の厳しい現状も聞き、農業への考えを新たにしました。普段の食生活を改めようという学生もいたようです。さらに、太陽の下で汗を流し、朝夕の涼しい風を感じ、畑でとれた野菜がすぐに食卓に並ぶような「田舎の生活」の体験、そしてなにより、農家の方から受けた優しさから感じたことが、今後の彼らの人生や進路に大きな影響を与えることでしょう。



出荷作業もお手伝いしました。

町の財政状況をお知らせします。

特別会計

区分	歳入	歳出
国民健康保険	28億9,653万1千円	28億4,477万1千円
老人保健	5,627万5千円	5,369万2千円
後期高齢者医療	2億1,929万5千円	2億1,775万2千円
介護保険	23億3,604万5千円	22億1,699万7千円
国民宿舎	7,289万2千円	7,246万2千円
住宅新築資金等貸付事業	683万9千円	224万5千円
簡易水道	3億4,829万9千円	3億4,486万7千円
水道事業	8,180万6千円(収益)	8,501万7千円(収益)
	75万6千円(資本)	2,724万2千円(資本)
病院事業	8億6,405万4千円(収)	8億2,827万円(収)
	2,370万1千円(資本)	2,495万円(資本)

平成21年度 財政状況

平成21年度決算に係る各種財政指数等から本町の財政状況をみてみますと、財政の弾力性を示す「経常収支比率」は昨年度より4.4%減少し88.4%となったものの、町村で望ましいとされる75%と比較しても高い数値を示しており、財政の硬直化が依然として続いています。財政構造的にも、地方公共団体が自主的に収入しうる自主財源の割合は16.0%と昨年度に比較して1.9%も低く、反対に、歳出では、人件費をはじめ扶助費、公債費といった義務的経費の割合は39.3%と高い水準で推移しており、このことが財政の硬直化を招いている大きな要因となっています。

また、「歳入歳出差引」から翌年度へ繰り越すべき財源を除いた「実質収支」は黒字ですが、「実質単年度収支」は5年連続で赤字となり、引き続き悪化の傾向にあります。加えて、町の借金とも言うべき「地方債現在高」は減少傾向ではありますが、依然として多額の残高を有しているため、将来にわたる財政負担が懸念されることです。

こうした厳しい財政状況を踏まえ、財政運営の健全性確保や弾力性の保持を図るため、今後も、自主財源の確保や事務事業の徹底した見直しを行うなど、なお一層の行財政改革を推進する必要があります。

◎普通会計とは「決算統計」における会計区分で、一般会計に住宅新築資金等貸付事業特別会計を加えたものです。

(単位：千円、%)

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
歳入総額	17,383,760	14,201,081	15,390,663	15,783,823	14,553,758	14,334,645
歳出総額	16,317,753	13,390,184	14,285,097	15,025,024	13,822,918	13,537,385
歳入歳出差引	1,066,007	810,897	1,105,566	758,799	730,840	797,260
実質収支	963,547	690,128	589,446	545,233	386,332	355,282
実質単年度収支	364,145	△273,103	△312,177	△516,494	△362,318	△239,191
標準財政規模	7,584,380	7,664,938	7,562,107	7,611,356	8,146,754	8,296,213
財政力指数	0.183	0.196	0.209	0.216	0.214	0.207
実質収支比率	12.7	9.0	7.8	7.2	4.7	4.3
経常収支比率	96.2	94.5	94.6	94.1	92.8	88.4
人件費	32.2	32.3	31.3	30.7	30.0	29.6
物件費	12.1	13.7	13.7	11.3	12.4	12.2
維持補修費	0.5	0.4	0.4	0.3	0.2	0.0
扶助費	3.2	2.5	2.7	3.0	2.9	2.6
補助費等	11.2	10.4	11.0	11.7	10.4	10.3
公債費	28.9	26.9	27.0	27.6	27.6	23.6
繰出金	8.1	8.1	8.4	9.1	9.3	9.3
公債費比率	17.9	15.9	15.4	15.6	15.2	11.4
実質公債費比率	—	—	14.8	13.7	13.4	13.0
起債制限比率	12.6	12.6	12.3	11.6	11.4	10.6
公債費負担比率	21.5	22.5	21.5	21.7	23.5	23.5
積立金現在高	2,157,939	2,615,948	2,278,106	2,725,083	2,603,585	2,920,098
内 財政調整基金	591,494	1,213,315	1,035,034	1,035,034	1,102,616	1,094,475
減債基金	178,624	109,212	194,606	194,606	171,265	172,061
特定目的基金	1,387,821	955,579	1,495,443	1,495,443	1,329,704	1,653,562
地方債現在高	17,972,081	17,288,523	16,832,933	16,075,833	15,091,317	14,206,896

◎特定目的基金には「庁舎建築基金」、「学校教育施設整備基金」、「公共施設整備基金」が含まれています。

◇実質収支

歳入歳出差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した決算額

◇実質単年度収支

当該年度実質収支から前年度実質収支を差し引いた額から、黒字要素（基金の積立、地方債の繰上償還）を加算し、赤字要素（基金の取崩し）を除いた実質的な単年度の決算額

◇標準財政規模

地方公共団体の経常的な一般財源の標準規模を示すもの。

◇財政力指数

財政運営するのに必要となる一般財源のうち、自前で調達できる税がどのくらい確保できるかという割合を理論的に求めたもので、財政運営の自主性の大きさを表す指数

◇実質収支比率

標準財政規模に対する実質収支額の割合で、財政運営の健全性を示す指数。3～5%程度が望ましいとされる。

◇経常収支比率

人件費や扶助費等の経常経費に、地方税や地方交付税といった経常一般財源がどの程度充当されているかをみることで、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するために用いられている指標。町村は75%前後が望ましいとされる。

◇公債費比率

公債費（地方債の元利償還金及び一時借入金の利子の合算額）の一般財源に占める割合。10%を超えないことが望ましく、15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされる。

◇実質公債費比率

「公営企業債の元利償還金に対する普通会計からの繰入金」などの公債費に準ずると考えられるものや、実質的に公債費と変わらないものを加算し、算定した指数。18%以上の団体は、地方債の発行に許可を要する。

◇起債制限比率

公債費の状況から財政運営の弾力性を判断する指標で、地方債発行の基準となるもの。20%以上になると一部の地方債の発行が制限される。

◇公債費負担比率

公債費に充当された一般財源の一般財源総額に対する割合で、公債費比率と同じく15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされる。